

聖句

竊かに以みれば、難思の弘誓は難度海を度する大船、無碍の光明は無明の闇を破する恵日なり。しかればすなわち、淨邦縁熟して、調達、闍世をして逆害を興ぜしむ。淨業機彰れて、釈迦、韋提をして安養を選ばしめたまえり。これすなわち権化の仁、斉しく苦悩の群萌を救済し、世雄の悲、正しく逆謗闡提を恵まんと欲す。かるがゆえに知りぬ。円融至徳の嘉号は、悪を転じて徳を成す正智、難信金剛の信樂は、疑いを除き証を獲しむる真理なりと。しかれば、凡小修し易き真教、愚鈍往き易き捷徑なり。大聖一代の教、この徳海にしくなし。穢を捨て淨を欣い、行に迷い信に惑い、心昏く識寡なく、悪重く障多きもの、特に如来の発遣を仰ぎ、必ず最勝の直道に帰して、専らこの行に奉え、ただこの信を崇めよ。ああ、弘誓の強縁、多生にも値いがたく、真実の淨信、億劫にも獲がたし。たまたま行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ。もしまたこのたび疑網に覆蔽せられれば、かえってまた曠劫を経歴せん。誠なるかなや、撰取不捨の真言、超世希有の正法、聞思して遅慮することなかれ。

顕浄土真実教行証文類序(総序)より

おん 恩 徳 讃 正 像 末 和 讃

如 来 大 悲 の 恩 徳 は
身 を 粉 に し て も 報 ず べ し
師 主 知 識 の 恩 徳 も
ほ ね を く だ き て も 謝 す べ し

目次

- 03 宗務総長挨拶
- 06 報恩講をたずねて
- 08 親鸞聖人のご生涯
- 12 報恩講の法要・行事日程
(11月21日、28日)
- 30 法要式次第
- 38 報恩講和讃
- 47 登高座とは
- 48 『報恩講私記』(式文)について
- 53 『歎徳文』について
- 56 帰敬式のご案内
- 57 報恩講 お斎のご案内
- 58 法要期間中の諸行事
- 61 しんらん交流館で開催される行事
- 62 涉成園のご案内
- 63 大谷祖廟のご案内
- 64 真宗本廟奉仕のご案内

全体日程

時間	21日(火)	22日(水)	23日(木)	24日(金)	25日(土)	26日(日)	27日(月)	28日(火)
6時50分		初晨朝 法話	晨朝 法話	晨朝 法話	中晨朝 法話	晨朝 法話	晨朝 法話	結願晨朝 ※6時30分～ 法話
9時	御正忌報恩講 讃仰法要 法話							結願日中 集会(開式) 祖徳讃嘆
9時30分		初日中集会 (開式) 法話	日中集会 (開式) 法話	日中集会 (開式) 法話	中日中集会 (開式) 法話	日中集会 (開式) 法話	日中集会 (開式) 法話	
10時	法要 (音楽法要)	初日中法要	日中法要	日中法要	中日中法要	日中法要	日中法要	結願日中 法要
	帰敬式		帰敬式	帰敬式		帰敬式	帰敬式	
		帰敬式			帰敬式			
12時30分								
13時15分	初速夜集会 (開式) 門徒感話 報恩講法話	速夜集会 (開式) 門徒感話 報恩講法話	速夜集会 (開式) 生徒感話 報恩講法話	中速夜集会 (開式) 門徒感話 報恩講法話	速夜集会 (開式) 学生感話 報恩講法話	速夜集会 (開式) 生徒感話 報恩講法話	結願速夜集会 (開式) 門徒感話 報恩講法話	
14時	初速夜法要	速夜法要	速夜法要	中速夜法要	速夜法要	速夜法要	結願速夜 法要	
		御文法話	御文法話		御文法話	御文法話		
	初夜勤行	初夜勤行	初夜勤行	御文法話		初夜勤行	御俗姓	
				初夜勤行			初夜勤行	
16時					初夜勤行			
16時30分						御伝鈔		
					後夜勤行			

※時間は目安です。また、時間・内容を変更する場合があります。

二〇二三年 真宗本廟 報恩講

本廟を基として

宗務総長
木越 渉



本年も宗祖親鸞聖人の御正忌報恩講をお迎えさせていただきます。

まずもって、今春にお勤まりになりました「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」においては、「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」のテーマのもと、国内外の御同朋とともに稀有なる御仏事にお会いでき、整齐に完遂されました。

境内に響き渡る「正信偈」に身が震え、かけがえのない値遇の機会をたまわりましたことに、あらためまして甚深の感謝を申し上げます。

慶讃法要を出発点として今、私たちは宗祖からの呼びかけを聞き続け、人間としての足もと、道(方向)を明らかにしていくことが何よりも肝要であります。その「呼びかけの書」こそが、宗祖真筆の『教行信証』坂東本です。

八百年の時を超えて伝えられてきた宗祖の肉筆に触れていくことで、親鸞聖人に私たちが向き

合っていく。宗祖は人と生まれて、どんな課題を持ち、どうお念仏に会い、人に出遇われてきたのかを、宗祖の言葉に尋ね聞いていく。身に引き当てていく。そして、自身が大悲の中にあることに常に立ち返らせていただく。正に聞思していくことが願われます。

仏教は長い歴史をかけて、その関係性を生きる「人間」を課題とし、人と生まれたことの意味をたずね続けてきた教えです。その聞思の証、宗祖の仏教史観が明示されているのが『教行信証』です。宗祖の求道に触れることで、何が私たちに願われ、何をすべきなのか、常に問われてくるのです。

無明長夜の燈炬なり 智眼くらしとかなしむな

生死大海の船筏なり 罪障おもしろなげかざれ

〔正像末和讃〕『真宗聖典』五〇三頁

既にして我々の足もと、立ちどころは、お念仏の教えによつて照らされています。

お念仏に絶対的な信頼を持って、お念仏申されてきた先達の尊い歩みに連なっている私たち。その歩みに欠かすことができない場、それが宗祖の御真影がまします真宗本廟です。

私たちの先達は、真宗本廟に集い、いただいた信心の灯を郷に持ち帰り、お念仏の声が聞こえる場を家庭や地域に相続してくださいました。そのおかげで今、南無阿弥陀仏の教えが私たちに届けられています。それは「集う」ことを渴望し、集まり(僧伽)の中で仏法をいただくことを大切にしてく

た歴史です。

長いコロナ下にあつて、仏法聴聞に集う場を開くことが難しい状況が続きましたが、慶讃法要がお勤まりになったことで、無意識の内に渴望してきた「集い聞く」尊さを、あらためて実感することができました。つまり今、面授による対話と共感が織り成してきた温もりを回復していく契機を得ているのです。

その意味において、再出発の報恩講です。私たちに届けられしお念仏の教えを、真宗本廟という場を、厳肅に、真摯に、受けとめ直す機会として、御真影のおんもとで相共にお念仏を申しましょう。そして信心の灯を生活の場に持ち帰り、相続してまいります。

なお、このたびの報恩講期間中、阿弥陀堂において、『教行信証』坂東本(影印本)を展示し、解説も行ってまいります。

親鸞聖人から私たちへの自筆のお手紙にふれ、その筆致から感情や思いを垣間見て、宗祖の聞思のお姿を感じていただき、お念仏の教えと、私たちの根本道場である真宗本廟の存在を、一人ひとりがいただき直す機会となることを願っています。

一人でも多くのご参拝を、心よりお待ちしております。

南無阿弥陀仏

報恩講をたずねて

報恩講とは、宗祖親鸞聖人の御祥月命日に勤まる法要のことです。祖師の御祥月命日や御命日に報恩の仏事が勤まることは真宗独自のものではありませんが、真宗門徒にとつては、一年でもっとも大切で中心となる仏事として勤まってきました。

報恩講は親鸞聖人滅後、門弟たちが親鸞聖人の御命日にお勤めをしたことに始まります。当時は「報恩講」と称していませんでしたが、宗祖三十三回忌の際には、第三代覚如上人が『報恩講私記』（式文）（本冊子48頁掲載）をお作りになって法要の次第を調べられ、後に覚如上人の子・存覚上人が『歎徳文』（同53頁掲載）をお作りになって法要の次第に加えられました。そして第八代蓮如上人の頃には、各地の寺院・道場でも広く勤まるようになりました。

しかしその源をたずねれば、親鸞聖人ご自身が、師・法然上人の御命日に人々と寄り合い、仏法を聴聞し、お勤めをしておられたことにあるといえます。親鸞聖人は生涯、日々新しく、感動をもって法然上人がお説きになった念仏の教えを聞き、そして語り合っていたのですが、その大切な機会が法然上人の御命日の集い（講）であったとうかがわれます。御命日にお勤めをしつつ、法然上人の教えをいよいよ深くいただいていた、この親鸞聖人のお姿こそ、いま私たちがお勤めしている報恩講の原点です。

思えば、私たちが生きていくうえには親の恩や師の恩など、いろいろなご恩があります。それぞれ大切なことですが、報恩講の恩とは、なにより親鸞聖人がただかれた念仏の教えに遇い、自らが生きる依り処を教えていただいたご恩のことです。そのご恩に報謝し、いよいよ親鸞聖人が明らかにされた真実のみ教えを聞信し、共に念仏申す身となっていくことを誓うことが報恩講の大切な意味なのです。

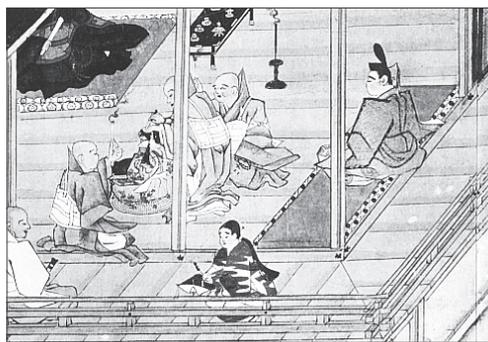
親鸞聖人のご生涯

浄土真宗の宗祖親鸞聖人は、戦乱や災害が相次いだ平安時代末期から鎌倉時代にかけて、九十年のご生涯を送られました。そのご生涯をたずねてみましょう。

① 誕生と出家（九歳）

一一七三（承安三）年、親鸞聖人は、京都にお生まれになりました。父である日野有範は朝廷に仕える役人でしたが、母についてはさだかではありません。

九歳の時、親鸞聖人は、後の天台座主・慈円のもとで出家されます。それから二十年の間、比叡山延暦寺できびしい修行と学問にはげめました。しかし、どれだけ修行と学問にはげんでも、さとりを開く道を見出すことはできませんでした。

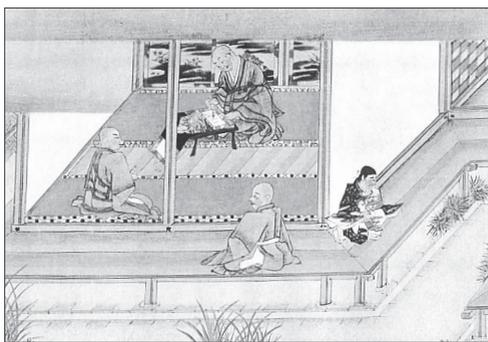


出家（『本願寺聖人伝絵』康永本）

② 法然上人とのであい（二十九歳）

親鸞聖人は、二十九歳の時、比叡山の仏教と決別し、道を求めて聖徳太子ゆかりの六角堂に籠られました。そして、九十五日目の暁、聖徳太子の夢告にみちびかれて、法然上人のもとをたずねられます。法然上人は、だれに対しても平等に「ただ念仏もうしなさい」とお説きになっていました。親鸞聖人は、この教えこそ、すべての人に開かれている仏道であるとうなずかれ、法然上人を生涯の師と仰ぎ、念仏者として歩み出されました。

法然上人のもとで、親鸞聖人は約六年間過ごされました。その間に、法然上人から主著『選択本願念仏集』の書写と真影（法然上人の肖像画）の製作を許されました。また、恵信尼公と出会い、結婚されたのもこの頃とされています。



『選択集』の付属

③ 越後・関東での生活

(三十五歳から六十歳ごろ)

法然上人の念仏の教えには、親鸞聖人だけでなく、老若男女、身分を問わず、たくさんの人々が帰依されました。しかし、興福寺や延暦寺などの他宗から強い反発を受け、ついに朝廷が弾圧に踏み切ります。その結果、四人が死罪、八人が流罪というきびしい処罰が下され、法然上人は土佐(現在の高知県)へ、親鸞聖人は越後(同新潟県)へ流罪となりました。親鸞聖人三十五歳の時でした。五年後、流罪が許された親鸞聖人は、法然上人の死を知ると、京都には戻らず関東へ向かわれました。そこで約二十年間滞在し、常陸(同茨城県)の稲田を中心に、念仏の教えを広く伝えていかれました。

また、この地において、主著『顕浄土真実教行証文類』(『教行信証』)を書き始められたとされています。



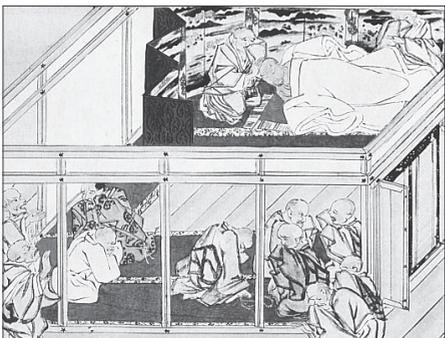
『顕浄土真実教行証文類』(坂東本)

④ 京都での生活 (六十歳ごろから九十歳)

親鸞聖人は、六十歳ごろ関東から京都に戻られたといわれています。

その後、関東では念仏の受けとめをめぐる、様々な混乱や対立がおこりました。そのなかで、誤った教えを広めた長男の慈信房善鸞と親子の縁を切るといふ悲しい出来事もありましたが、親鸞聖人は、『教行信証』を書きすすめるとともに、終生同朋・同行に手紙や書物を送り、念仏の教えを伝え続けられました。

一二六二(弘長二)年十二月二十八日、親鸞聖人は九十年の生涯を終えられました。末娘の覚信尼公ら家族や門弟たちが、死を看取り、葬儀を行ったといえます。遺骨は、大谷(現在の京都市東山区)に埋葬され、小さなお墓が立てられました。このお墓が廟堂となり、やがて本願寺(真宗本廟)の御影堂へと受け継がれていくのです。この廟堂に関東(坂東)の門弟たちが参拝し、親鸞聖人への念仏する姿が、後に坂東曲となったと伝えられています。



入滅

21日火

法要日程

午前

午後

21日火の行事

【開門】6時20分 【閉門】17時

御正忌報恩講 讃仰法要(音楽法要)

時間 9時～11時

場所 御影堂

【日程】

報恩講初速夜に先立ち、今年も親鸞聖人の御正忌報恩講讃仰法要(音楽法要)が勤まります。

音楽法要は、親鸞聖人七百五十回御遠忌をご縁として制作された新実徳英氏の音楽法要曲を用います。この法要曲は、同朋唱和により、ご参拝の皆さまと共に唱和できるよう編成されました。一人でも多くの方の歌声によって法要を荘厳しましょう。

9時	真宗宗歌
9時5分	法話
9時35分	内局挨拶
9時45分	慶讃テーマソング 法要(音楽法要)
10時	入堂
一	出仕曲
二	着座曲
三	総礼
四	登高座曲
五	三帰依
六	表白
七	散華曲
八	下高座曲
九	総礼
十	正信偈(和訳正信偈)
十一	念仏
十二	和讃(三朝浄土の大師等)
十三	回向
十四	総礼
十五	退出曲
十六	退堂

※当日ご参拝の方には、歌詞等が掲載された冊子を配布いたしますので、ぜひ一緒にご唱和ください。



親子で取り組むレクリエーションがほほえましい公開保育に、ぜひお越しください。

時間

11時～12時15分

場所

真宗本廟視聴覚ホール
(参拝接待所地下2階)

※どなたでも観覧いただけます。

(公社)大谷保育協会京都支部
代表園児による

報恩講合同参拝・公開保育

御影堂

引続

10時

9時

御正忌報恩講讃仰法要
法話

山田孝夫氏(長浜教区)

慶讃テーマソング

法要(音楽法要)

◆式次第は左頁参照

約1時間



【作曲】

新実徳英氏

(作曲家)

【合唱指導・指揮】

鈴木勇樹氏

(同朋高等学校
音楽科主任教諭)

【電子オルガン伴奏】
石原光紅子氏

帰敬式

◆帰敬式の受式については、
56頁参照

御影堂

引続

14時

13時15分

初速夜集会(開式)

初速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

門徒感話

御器谷勉氏(富山教区)

報恩講法話

花下優子氏(東北教区)

初速夜(楽)

約1時間30分

◆式次第は30頁参照

初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

二〇二三年御正忌報恩講 讚仰法要(音楽法要) 表白

謹んで弥陀・釈迦二尊、並びに三世十方の仏・法・僧、加えて御参会の同朋の皆様にし上げます。本日ここに、有縁の同朋あい集い、御正忌報恩講讚仰音楽法要を勤修するにあたり、その願いを申し述べたいと思います。

本年三月二十五日から一月あまりにわたった宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讚法要が、無事に勤まりました。両堂に響き渡った「正信偈」の音が、まことにありがたいものに聞こえました。すべて、おかげさまであったと強く感じました。

しかし方で、新型コロナウイルス感染症は三応の小康をみましたが、昨年始まったウクライナでの戦争は、いまだ終息が見えず、イスラエルとパレスチナの争いはどうなつてゆくか全くわかりません。また世界各地で大規模な自然災害が頻発しています。この日本においても、いくつかの災害があり、さらなる大規模な災害が、いつ起きたとしても不思議はありません。出口の見えない不安に襲われます。

無明長夜の燈炬なり 智眼くらしとかなしむな
生死大海の船筏なり 罪障おもしとなげかざれ

と、宗祖聖人はおっしゃっておられます。

如来の光に照らされることによつて、自分の思いに飲み込まれ、いたずらに不安に沈み込んでいるその姿が明らかになります。そしてその如来とのであいを誇ることなく、不安を背負った、この愚かな身のまま、ただただ、本願という筏に乗せられて自らのできごとをなせ、そう教えられています。いまこそ、不安を抱えている世界中のすべての人に、親鸞聖人のお念仏の教えを届け、ともに聞法したい、と思います。

伏して申しあげます。仏祖の御照護を請い、この音声の力に乗せて、法雨が一切の生きとし生けるものに降り注ぎ、ゆたかに潤さんことを。

二〇二三年十一月二十一日 釈修如、敬つて申しあげます。

釈修如

22日水の行事

【開門】5時30分 【閉門】17時

22日水

法要日程

午前

午後

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

初晨朝

◆式次第は31頁参照

約50分

御文

法話

山田孝夫氏(長浜教区)

初日中集會(開式)

初日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

法話

山田孝夫氏(長浜教区)

初日中(楽)

約1時間45分

◆式次第は31頁参照

帰敬式

◆帰敬式の受式については、56頁参照

御影堂

13時15分

速夜集會(開式)

速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

門徒感話

加藤勝男氏(岡崎教区)

報恩講法話

中西無量氏(九州教区)

速夜

◆式次第は36頁参照

約1時間

御文法話

「御正忌」(五帖目十一通)

山田孝夫氏(長浜教区)

初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

高倉幼稚園児による発表会

時間 11時〜12時

場所 真宗本廟視聴覚ホール (参拝接待所地下2階)

※ごなたでも観覧いただけます。各園の代表園児たちが参拝し、歌やダンスを披露します。



御文法話

期間 22日〜26日 各日速夜後

御文とは、真宗再興の祖、第八代蓮如上人が書かれたお手紙です。

御文の拝読は、「蓮如上人の直接御化導を参拝の大衆に伝達する為のものである」とされています。

御文法話には、一定の順序形式がありました。それは、一座の法談を展開する主題である讚題に始まり、典拠、随文、作釈、譬喩、因縁、合法、安心、報謝、師徳、法度という構成になっており、法話の最後の結びとして、「尚一座の所詮安心の正意は拝読の御文を大切に聴聞いたさるよう」とのこぼれを残して、御文の拝読に移るものでした。今日では古式に則った形ではありませんが、真宗本廟の報恩講では22日から26日の速夜後に行われます。

23日木の行事

【開門】5時30分 【閉門】17時

23日木

法要日程

午前

午後

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

晨朝

◆式次第は37頁参照

約50分

御文

法話

新川隆教氏(大阪教区)

日中集会(開式)

日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

9時30分

法話

新川隆教氏(大阪教区)

※手話通訳があります。

日中

◆式次第は36頁参照

約1時間

御影堂

10時

引続

帰敬式

◆帰敬式の受式については、56頁参照

御影堂

14時

引続

13時15分

速夜集会(開式)

速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

生徒感話

土橋泰知氏(愛知啓成高等学校)

報恩講法話

松下俊英氏

(真宗大谷派擬講・金沢教区)

速夜

◆式次第は36頁参照

約1時間

御文法話「八箇条」(四帖目八通)

新川隆教氏(大阪教区)

初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉護】

子ども報恩講のつどい

時間 11時50分～15時

場所 御影堂・阿弥陀堂・同朋会館・和敬堂

子どもたちが親鸞聖人や真宗本廟にふれるご縁となることを願い、一緒に両堂に参拝し、お話を聞きます。楽しいレクリエーションもあります。ぜひご家族やお友達とお参りください。



10時	受付開始	【子ども参拝案内所】
10時30分	軽食配布	【和敬堂・同朋会館】
日中終了後	帰敬式	【御影堂】
11時50分	ちかい・両堂参拝・お勤め・お話し	【御影堂・阿弥陀堂】
13時～15時	おたのしみ(自由参加)	【同朋会館】

【お話し】一楽 真氏(大谷大学学長)

◆お問い合わせは青少年センター(TEL075-3541344)まで

大谷中・高等学校吹奏楽部演奏会

時間 11時30分(帰敬式後)～12時10分

場所 御影堂北側広縁

宗派の関係学校である京都・大谷中・高等学校の吹奏楽部の皆さんに演奏いただきます。世代を問わず楽しめる演目です。ぜひご来聴ください。



24日 金

法要日程

午前

午後

24日 金の行事

【開門】5時30分 【閉門】17時

第31回 真宗教学学会講演会

時間 18時〜20時20分(17時開場)

場所 しんらん交流館2階大谷ホール

※聴講無料(予約不要)・椅子席

真宗教学学会は、真宗教学の振興を図り、立教開宗の精神を顕らかにするために設置された宗門の学会であり、毎年御正忌報恩講中に宗派内外から講師をお招きして講演会を開催しています。今年度からは新たに「人と生まれたい信仰と社会」をテーマに設定しました。多くのご参加をいただき、ともに考える機会となることを願っています。

お問い合わせ 教育部 TEL 075-371-9193

【テーマ】人と生まれたい信仰と社会

【講師・講話】

「日本仏教における「救い」と社会倫理」

島藺 進氏

(大正大学客員教授・NPO東京自由大学学長・東京大学名誉教授)

「宗祖親鸞聖人の求道と「世間」」

東館紹見氏(大谷大学教授)



『同朋新聞』の人気連載「仏典の星ぼし」がついに書籍化!! 新たな書下ろし2話も収載!

『仏典の星ぼし』

渡邊愛子 文 / 臂美恵 絵
◆A4変形判・68頁 定価:1,650円(税込)

古くから伝わる仏典には、お釈迦さまの教えが誰にでも伝わるよう説かれたたとえ話など、大人も子どもも親しみながら読むことができる物語がたくさんあります。そんな物語30話を収載。情感豊かな文章と鮮やかなイラストで表現される絵本で、お子さんはもちろん、大人の方にもぜひ読んでいただきたい1冊。



お求めは、東本願寺お買い物広場にて

御影堂

引続 10時

9時30分

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

晨朝

◆式次第は37頁参照

約50分

御文

直林真氏(能登教区)

日中集会(開式)

日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

法話

直林真氏(能登教区)

日中

◆式次第は36頁参照

約1時間

帰敬式

◆帰敬式の受式については、56頁参照

御影堂

引続

14時

13時15分

中速夜集会(開式)

中速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

門徒感話

石山久美子氏(東北教区)

報恩講法話

草野龍子氏(九州教区)

中速夜(案)

◆式次第は32頁参照

約1時間30分

御文法話

直林真氏(能登教区)

初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

25日土の行事

【開門】5時30分 【閉門】19時

25日土

法要日程

午前

午後

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

中晨朝

◆式次第は33頁参照

約50分

御文

法話 大橋尚代氏(大垣教区)

中日中集会(開式)

中日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

9時30分

御影堂

10時

法話

佐賀枝立氏(富山教区)

中日中(楽)

◆式次第は32頁参照 約1時間40分

帰敬式

◆帰敬式の受式については、56頁参照

引続

御影堂

13時15分

速夜集会(開式)

速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

学生感話

滝脇莉央氏(京都光華女子大学)

報恩講法話

木越康氏

(真宗大谷派擬講・金沢教区)

速夜

◆式次第は36頁参照

約1時間

御文法話

「毎年不闕」(三帖目十二通) 佐賀枝立氏(富山教区)

初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

御伝鈔

約2時間

後夜勤行

御伝鈔

時間 16時30分

場所 御影堂

『御伝鈔』は正式には『本願寺聖人伝絵』といい、第三代の覚如上人が撰述された絵巻物です。宗祖親鸞聖人の伝記として、最初のものであり、聖人のご生涯を、感銘深いエピソードを交えてなじみやすく述べられた点でも、画期的なものと評価されています。

毎年、真宗寺院の報恩講では、真宗本廟に伝えられる康永本を原型とした四幅(または二幅)の『御絵伝』が内陣余間に掛けられ、『御伝鈔』が拝読されてきました。縦長の軸物になった『御絵伝』は、下から上へと順々に聖人の行実が描かれています。

『御伝鈔』は概略しますと、上巻には、親鸞聖人の求道の歩みが、主に吉水時代を中心に語られます。下巻では、念仏停止の弾圧の嵐のただなかで、命がけで念仏の道をひろめんがため、ご苦労なされた越後・関東時代からご帰洛後におよび、さらに浄土へ還帰されたあと、廟堂が建立され、お念仏の灯が、いよいよ輝きを増し、参詣のにぎわいはご生前をものぐほごになったことが伝えられています。そこには、後の世まで、これを伝え護っていかねばならぬという覚如上人の強い責任感と使命感があふれています。



『御伝鈔』『御絵伝』の入門書はこちら!

オールカラー



『はじめてふれる親鸞聖人伝絵 (御伝鈔・御絵伝)』

沙加戸 弘 著 ◆B5判・104頁 定価:1,650円(税込)

浄土真宗の宗祖親鸞聖人があきらかにされた本願念仏の教えを、後世に伝えようと覚如上人が制作された絵巻物『親鸞聖人伝絵』。ここには、聖人の生涯における主要な出来事が、文章(御伝鈔)と絵(御絵伝)で表されています。本書は、御伝鈔の試訳をはじめ、御絵伝20図の詳細な解説を掲載し、『親鸞聖人伝絵』にはじめてふれる方にも最適な一冊。

お求めは、東本願寺お買い物広場にて

26日 日の行事

【開門】5時30分 【閉門】17時

26日 日

法要日程

午前

午後

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

晨朝

◆式次第は37頁参照

約50分

御文

法話 義盛幸規氏(北海道教区)

日中集会(開式)

日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

法話

義盛幸規氏(北海道教区)

日中

◆式次第は36頁参照

約1時間

帰敬式

◆帰敬式の受式については、56頁参照

御影堂

10時

引続

御影堂

13時15分

速夜集会(開式)

速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

生徒感話

北風花蓮氏(小松大谷高等学校)

報恩講法話

飯田真宏氏

(真宗大谷派擬講・名古屋教区)

速夜

◆式次第は36頁参照

約1時間

御文法話

大坂建立(四帖目十五通)

義盛幸規氏(北海道教区)

初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

親鸞聖人讃仰講演会

時間 18時〜20時30分(開場17時)

場所 しんらん交流館2階大谷ホール

※聴講無料(予約不要)・椅子席

報恩講を機縁として、多くの方々と宗祖親鸞聖人の頭かにされた本願念仏のみ教えを共に学び、そのご生涯を讃仰するため、親鸞聖人讃仰講演会を開催いたします。

【26日の講師・講題】

「ままならない体を生きる」

伊藤亜紗氏

(東京工業大学教授・未来の人類研究センター長)

「証道」という成仏道―証から証果へ―

小川一乘氏(大谷大学名誉教授・真宗大谷派講師)



※講演の様子をインターネットにて同時配信いたします。

詳しい情報は、しんらん交流館ホームページにて公開中！

“自筆”が物語る 親鸞聖人の息遣いにつれる

『親鸞聖人の自筆にふれる正信念佛偈』

聖教編集室 協力 / 東本願寺出版 編
◆B5判・56頁 定価:1,100円(税込)

親鸞聖人が生涯推敲を重ねられた主著であり、聖人の自筆として国宝指定されている『教行信証』坂東本。本書は、その中から真宗門徒のお勤めとして親しまれる「正信偈」の全文をオールカラーで掲載したもの。朱書きや墨で塗り消してからの修訂など、自筆でなければ見ることのできない思索の跡をとおして、聖人のおこころにふれる一冊。

お求めは、東本願寺お買い物広場にて



親鸞聖人の自筆にふれる
正信念佛偈

27日月の行事

【開門】5時30分 【閉門】17時

27日月

法要日程

午前

午後

阿弥陀堂・御影堂

6時50分

◆ 晨朝
式次第は37頁参照

約50分

御文
法話 義盛幸規氏(北海道教区)

◆ 日中集会(開式)

日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

法話 義盛幸規氏(北海道教区)

◆ 日中
式次第は36頁参照

約1時間

◆ 帰敬式

帰敬式の受式については、56頁参照

御影堂

10時

引続

御影堂

13時15分

◆ 結願速夜集会(開式)
結願速夜法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

◆ 門徒感話

佐々木榮氏(四国教区)

◆ 報恩講法話

大橋恵真氏(大阪教区)

◆ 結願速夜(衆)
式次第は34頁参照

約1時間40分

◆ 御俗姓

◆ 初夜勤行

【正信偈草四句目下・同朋奉讃】

御正忌報恩講コンサート

時間 11時30分～13時30分

場所 しんらん交流館2階大谷ホール

※参加無料(予約不要)・椅子席

各教区の合唱団及び関係学校による仏教讃歌のコンサートです。教えに出遇った喜びを表現します。

【出演団体】

◆ 長浜教区合唱団花あかり・混声合唱団かがやき

うたはな合同合唱団

(長浜教区・京都教区)

◆ 正圓寺混声合唱団「暁」

(大垣教区)

◆ 吉田御坊合唱団(岡崎教区)

◆ 光華小学校



親鸞聖人 讃仰講演会

時間 18時～20時30分(開場17時)

場所 しんらん交流館2階大谷ホール

※聴講無料(予約不要)・椅子席

親鸞聖人を讃仰する講演会を開催します。ぜひご来場ください。

【27日の講師・講題】

「門徒という生き方」

「親鸞聖人の御生涯に学ぶ」

沙加戸弘氏(大谷大学名誉教授)

「願心莊嚴の浄土」

本多弘之氏

(親鸞仏教センター所長・真宗大谷派講師)



28日 火

法要日程

午前

阿弥陀堂・御影堂

6時30分

結願晨朝

◆式次第は35頁参照

約1時間

御文

法話 上本賀代子氏(大阪教区)

結願日中集会(開式)

結願日中法要へご参拝の方は、この時刻までに御影堂にお入りください。

9時

祖徳讃嘆

木村宣彰氏
(真宗大谷派講師・富山教区)

結願日中(楽「坂東曲」)

約2時間30分

◆式次第は34頁参照

10時

御影堂

【開門】5時 【閉門】16時30分

28日火の行事

親鸞聖人 讃仰講演会

時間 18時〜20時30分(開場17時)

場所 しんらん交流館2階大谷ホール

※聴講無料(予約不要)・椅子席

親鸞聖人を讃仰する講演会を開催します。

ぜひご来場ください。

【28日の講師・講題】

『教行信証』の三部経

織田頭祐氏

(同朋大学特別任用教授)

大谷大学名誉教授

「救いと罪

—唯、差別するを除く—」

池田勇諦氏

(同朋大学名誉教授)

真宗大谷派講師

祖徳讃嘆

祖徳讃嘆は、念仏の教えを顕かにされた宗祖親鸞聖人の恩徳を讃嘆し、その教えをいたたく場として、毎年、聖人の祥月命日である11月28日に行われます。



坂東曲

28日の結願日中(御満座)には「坂東曲」が用いられます。この声明の由来について、詳細は明らかではありませんが、一説には鎌倉時代から南北朝時代、第三代覚如上人の頃に勤まった関東の同行による勤行がはじまりとも伝えられています。念仏と和讃を繰り返して、体を力強く前後左右に動かして勤まるもので、大変ダイナミックな声明であり、今では当派のみに伝えられています。和讃には二通りあって、隔年で勤まります。一つは高僧和讃の「願力成就の報土には」六首、もう一つは正像末和讃の「濁世の有情をあわれみて」六首で、今年が高僧和讃で勤まります(46頁参照)。



報恩講和讃

21日 初逮夜(浄土和讃)

弥陀成仏のこのかたは
 いまに十劫をへたまえり
 法身の光輪きわもなく
 世の盲冥をてらすなり
 智慧の光明はかりなし
 有量の諸相ことごとく
 光暎かぶらぬものはなし
 真実明に帰命せよ
 解脱の光輪きわもなし
 光触かぶるものはみな
 有無をはなるとのべたまう
 平等覺に帰命せよ
 光雲無碍如虚空
 一切の有碍にさわりなし
 光沢かぶらぬものぞなき
 難思議を帰命せよ

22日 初日中(浄土和讃)

光明月日に勝過して
 超日月光となつけたり
 釈迦嘆じてなおつきず
 無等等を帰命せよ

弥陀初会の聖衆は

算数のおよぶことぞなき
 浄土をねがわんひとはみな
 広大会を帰命せよ

安樂無量の大菩薩

一生補処にいたるなり
 普賢の徳に帰してこそ
 穢国にかならず化するなれ

22日 逮夜(浄土和讃)

十方衆生のためにとて
 如来の法蔵あつめてぞ
 本願弘誓に帰せしむる
 大心海を帰命せよ

清浄光明ならびなし

遇斯光のゆえなれば
 一切の業繫ものぞこりぬ
 畢竟依を帰命せよ

仏光照曜最第一

光炎王仏となつけたり
 三塗の黒闇ひらくなり
 大応供を帰命せよ

22日 初晨朝(浄土和讃)

道光明朗超絶せり
 清浄光仏ともうすなり
 ひとたび光照かぶるもの
 業垢をのぞき解脱をう
 慈光はるかにかぶらしめ
 ひかりのいたるところには
 法喜をうとぞのべたまう
 大安慰を帰命せよ

観音勢至もろともに

慈光世界を照曜し
 有縁を度してしばらくも
 休息あることなかりけり

安樂浄土にいたるひと

五濁悪世にかえりては
 釈迦牟尼仏のごとくにて
 利益衆生はきわもなし

神力自在なることは

測量すべきことぞなき
 不思議の徳をあつめたり
 無上尊を帰命せよ

安樂声聞菩薩衆

人天智慧ほからかに
 身相莊嚴みなおなじ
 他方に順じて名をたらぬ

顔容端正たぐいなし

精微妙軀非人天
 虚無之身無極体
 平等力を帰命せよ

無明の闇を破するゆえ

智慧光仏となつけたり
 一切諸仏三乗衆
 ともに嘆誉したまえり

光明てらしてたえざれば

不断光仏となつけたり
 聞光力のゆえなれば
 心不断にて往生す

仏光測量なきゆえに

難思光仏となつけたり
 諸仏は往生嘆じつつ
 弥陀の功德を称せしむ

神光の離相をとかざれば

無称光仏となつけたり
 因光成仏のひかりをば
 諸仏の嘆するところなり

23日 晨朝(浄土和讃)

安樂国をねがうひと
 正定聚にこそ住すなれ
 邪定不定聚くになし
 諸仏讃嘆したまえり

十方諸有の衆生は

阿弥陀至徳の御名をきき
 真実信心いたりなば
 おおきに所聞を慶喜せん

若不生者のちかいゆえ

信樂まことにときいたり
 一念慶喜するひとは
 往生かならずさだまりぬ

安樂仏土の依正は

法蔵願力のなせるなり
 天上天下にたぐいなし
 大心力を帰命せよ

安樂国土の莊嚴は
釈迦無碍のみことにて
とくともつきじとのべたまう
無称仏を帰命せよ

已今当の往生は

この土の衆生のみならず
十方仏土よりきたる
無量無数不可計なり

23日 日中(浄土和讃)

阿弥陀仏の御名をきき
歡喜讚仰せしむれば
功德の宝を具足して
一念大利無上なり

たとい大千世界に

みたらん火をもすぎゆきて
仏の御名をきくひとは
ながく不退にかなうなり

神力無極の阿弥陀は

無量の諸仏ほめたまう
東方恒沙の仏国より
無数の菩薩ゆきたまう

23日 逮夜(浄土和讃)

自余の九方の仏国も
菩薩の往觀みなおなじ
釈迦牟尼如来偈をときて
無量の功德をほめたまう

十方の無量菩薩衆

徳本うえんためにとて
恭敬をいたし歌嘆す
みなひと婆伽婆を帰命せよ

七宝講堂道場樹

方便化身の浄土なり
十方来生きわもなし
講堂道場礼すべし

妙土広大超数限

本願莊嚴よりおこる
清浄大摂受に
稽首帰命せしむべし

自利利他円満して

帰命方便巧莊嚴
ころもことばもたえれば
不可思議尊を帰命せよ

神力本願及満足

明了堅固究竟願
慈悲方便不思議なり
真無量を帰命せよ

24日 晨朝(浄土和讃)

尊者阿難座よりたち
世尊の威光を瞻仰し
生希有心とおどろかし
未曾見とぞあやしみし

恒沙塵数の如来は

万行の少善きらいつつ
名号不思議の信心を
ひとしくひとえにすすめしむ

十方恒沙の諸仏は

極難信ののりをとき
五濁悪世のためにとて
証誠護念せしめたり

諸仏の護念証誠は

悲願成就のゆえなれば
金剛心をえんひとは
弥陀の大恩報すべし

五濁悪時悪世界

濁悪邪見の衆生には
弥陀の名号あたえてぞ
恒沙の諸仏すすめたる

弥陀の名号となえつつ

信心まことにうるひとは
憶念の心つねにして
仏恩報するおもいあり

南無不可思議光仏
饒王仏のみもとにて
十方浄土のなかよりぞ
本願選択摂取する

如来興世の本意には

本願真実ひらきてぞ
難値難見とときたまひ
猶霊瑞華としめしける

弥陀成仏のこのかたは

いまに十劫とときたれど
塵点久遠劫よりも
ひさしき仏とみえたまう

如来の光瑞希有にして

阿難はなはだころよく
如是之義ととえりしに
出世の本意あらわせり

大寂定にいりたまひ

如来の光顔たえにして
阿難の恵見をみそなわし
問斯恵義とほめたまう

如来興世の本意には

本願真実ひらきてぞ
難値難見とときたまひ
猶霊瑞華としめしける

弥陀成仏のこのかたは

いまに十劫とときたれど
塵点久遠劫よりも
ひさしき仏とみえたまう

24日 日中(浄土和讃)

無碍光仏のひかりには
清浄歡喜智慧光
その徳不可思議にして
十方諸有を利益せり

至心信樂欲生と

十方諸有をすすめてぞ
不思議の誓願あらわして
真実報土の因とする

真実信心うるひとは

すなわち定聚のかずにいる
不退のくらしにいりぬれば
かならず滅度にいたらしむ

24日 中逮夜(浄土和讃)

十方微塵世界の
念仏の衆生をみそなわし
撰取してすてざれば
阿弥陀となづけけたてまつる

25日 中晨朝(高僧和讃)

本師龍樹菩薩は
智度十住毘婆娑等
つくりておおく西をほめ
すすめて念仏せしめたり

南天竺に比丘あらん
龍樹菩薩となづくべし
有無の邪見を破すべしと
世尊はかねてときたまう

本師龍樹菩薩は
大乘無上の法をとぎ
歡喜地を証してぞ
ひとえに念仏すすめける

龍樹大士世にいでて
難行易行のみちおしえ
流転輪回のわれらをば
弘誓のふねにのせたまう

本願力にあいぬれば

むなくすぐるひとぞなき
功德の宝海みちみちて
煩惱の濁水へだてなし

如来浄華の聖衆は

正覚のはなより化生して
衆生の願樂ことごとく
すみやかにとく満足す

天人不動の聖衆は

弘誓の智海より生ず
心業の功德清浄にて
虚空のごとく差別なし

天親論主は一心に

無碍光に帰命す
本願力に乗ずれば
報土にいたるとのべたまう

本師龍樹菩薩の

おしえをつたえきかんひと
本願ころにかけしめて
つねに弥陀を称すべし

不退のくらすみやかに
えんとおもわんひとはみな
恭敬の心に執持して
弥陀の名号称すべし

25日 中日中(高僧和讃)

生死の苦海ほとりなし
ひさしくしずめるわれらをば
弥陀弘誓のふねのみぞ
のせてかならずわたしける

智度論にのたまわく
如来は無上法皇なり
菩薩は法臣としたまいて
尊重すべきは世尊なり

26日 晨朝(高僧和讃)

尽十方の無碍光仏
一心に帰命するをこそ
天親論主のみことには
願作仏心とのべたまえ

願作仏の心はこれ
度衆生のころなり
度衆生の心はこれ
利他真実の信心なり

信心すなわち一心なり
一心すなわち金剛心
金剛心は菩提心
この心すなわち他力なり

願土にいたればすみやかに
無上涅槃を証してぞ
すなわち大悲をおこすなり
これを回向となづけたり

一切菩薩のたまわく

われら因地にありしとき
無量劫をへめぐりて
万善諸行を修せしかど

恩愛はなはだちがたく
生死はなはだつきがたし
念仏三昧行じてぞ
罪障を滅し度脱せし

25日 逮夜(高僧和讃)

釈迦の教法おおけれど
天親菩薩はねんごろに
煩惱成就のわれらには
弥陀の弘誓をすすめしむ

安養浄土の莊嚴は
唯仏与仏の知見なり
究竟せること虚空にして
広大にして辺際なし

本師曇鸞和尚は

菩提流支のおしえにて
仙経ながくやきすてて
浄土にふかく帰せしめき

四論の講説さしおきて

本願他力をときたまい
具縛の凡衆をみちびきて
涅槃のかどにぞいらしめし

26日 日中(高僧和讃)

いつつの不思議をとくなかに
仏法不思議にしくぞなき
仏法不思議といふことは
弥陀の弘誓になづけたり

弥陀の回向成就して
往相還相ふたつなり
これらの回向によりてこそ
心行ともにえしむなれ

往相の回向とくことは
弥陀の方便ときいたり
悲願の信行えしむれば
生死すなわち涅槃なり

26日 逮夜(高僧和讃)

専修のひとをほむるには
千無一失とおしえたり
雑修のひとをきらうには
万不一生とのべたまう

報の浄土の往生は

おおからずとぞあらわせる
化土にうまるる衆生をば
すくなくらすとおしえたり

男女貴賤ことごとく

弥陀の名号称するに
行住座臥もえらばれず
時処諸縁もさわりなし

如来の回向に帰入して

願作仏心をうるひとは
自力の回向をすてはて
利益有情はきわもなし

27日 日中(正像末和讃)

弥陀の智願海水に

他方の信水いりぬれば
真実報土のならいにて
煩惱菩提一味なり

如来二種の回向を

ふかく信するひとはみな
等正覚にいたるゆえ
憶念の心はたえぬなり

弥陀智願の回向の

信楽まことにうるひとは
摂取不捨の利益ゆえ
等正覚にいたるなり

煩惱にまなごさえられて

摂取の光明みざれども
大悲ものうきことなくて
つねにわが身をてらすなり

弥陀の報土をねがうひと

外儀のすがたはことなりと
本願名号信受して
寤寐にわするることなかれ

極悪深重の衆生は

他の方便さらになし
ひとえに弥陀を称してぞ
浄土にうまるとのべたまう

27日 晨朝(正像末和讃)

三恒河沙の諸仏の

出世のみもとにありしとき
大菩提心おこせども
自力かなわで流転せり

27日 結願逮夜(正像末和讃)

五十六億七千万

弥勒菩薩はとしをへん
まことの信心うるひとは
このたびさとりをひらくべし

念仏往生の願により

等正覚にいたるひと
すなわち弥勒におなじくて
大般涅槃をさとるべし

真実信心うるゆえに

すなわち定聚にいりぬれば
補処の弥勒におなじくて
無上覚をさとるなり

像法よきの智人も

自力の諸教をさしおきて
時機相應の法なれば
念仏門にぞいらたまう

像末五濁の世となりて

釈迦の遺教かくれしむ
弥陀の悲願ひろまりて
念仏往生さかりなり

超世無上に摂取し

選択五劫思惟して
光明寿命の誓願を
大悲の本としたまえり

浄土の大菩提心は

願作仏心をすすめしむ
すなわち願作仏心を
度衆生心となづけたり

度衆生心ということは

弥陀智願の回向なり
回向の信楽うるひとは
大般涅槃をさとるなり

弥陀の尊号となえつつ

信楽まことにうるひとは
憶念の心つねにして
仏恩報ずるおもいあり

五濁悪世の有情の

選択本願信すれば
不可称不可説不可思議の
功德は行者の身にみたり

28日 結願晨朝(正像末和讃)

南無阿弥陀仏の回向の

恩徳広大不思議にて
往相回向の利益には
還相回向に回入せり

往相回向の大慈より

還相回向の大悲をう
如来の回向なかりせば
浄土の菩提はいかがせん



御正忌報恩講結願日中(2022年11月28日)



登高座とは

登高座は、その法要の導師が、尊前において法要の趣旨・願い(表白)を述べるもので、報恩講においては『報恩講私記』『歎徳文』の拝読、さらに經典読誦のために行う作法です。導師は、伽陀や楽で登壇し、焼香、三礼(三帰依)などののちに拝読を始めます。

拝読後は伽陀や楽によって復座しますが、その前に起立散華や行道散華などが仏徳讃嘆のために行われることがあります。

報恩講期間中の日中法要には、『報恩講私記』、『歎徳文』が登高座の際に拝読されます。『報恩講私記』、『歎徳文』については48頁～55頁をご覧ください。

28日 結願日中 (高僧和讃)

願力成就の報土には
自力の心行いたらねば
大小聖人みなながら
如来の弘誓に乗ずなり

煩惱具足と信知して
本願力に乗ずれば
すなわち穢身すてはてて
法性常樂証せしむ

真心徹到するひとは
金剛心なりければ
三品の懺悔するひとは
ひとしと宗師はのたまえり

五濁悪世のわれらこそ
金剛の信心ばかりにて
ながく生死をすてはてて
自然の浄土にいたるなれ

※坂東曲に用いられる和讃

金剛堅固の信心の

さだまるときをまちえてぞ
弥陀の心光摂護して
ながく生死をへだてける

眞実信心えざるをば
一心かけぬとおしえたり
一心かけたるひとはみな
三信具せずとおもうべし

※坂東曲に用いられる和讃

(正像末和讃)

三朝浄土の大師等
哀愍摂受したまいて
眞実信心すすめしめ
定聚のくらいにいれしめよ

他力の信心うるひとを
うやまいおおきによろこばば
すなわちわが親友ぞと
教主世尊はほめたまう

如来大悲の恩徳は
身を粉にしても報ずべし
師主知識の恩徳も
ほねをくだきても謝すべし

『真宗聖典』(東本願寺出版発行)より

『報恩講私記』(式文)について

『報恩講私記』は、報恩講で拝読する文で、一二九四(永仁二年、宗祖親鸞聖人三十三回忌法要にあたって、第三代覚如上人が作られました。『報恩講式』とも書き、略して『式文』ともいいます。真宗本廟の報恩講では各日の日中法要中に拝読されます。

まず総礼(合掌)のち、三礼(仏・法・僧の三宝への敬礼)・如来唄(如来の讃嘆)・表白が拝読されます。

表白とは、法会を修するにあたり趣旨を読みあげるものです。『報恩講私記』では、冒頭の「敬いて大恩教主釈迦如来…」の部分にそれにあたります。そこでは、阿弥陀如来の大悲の恩徳と、その大悲に気づかせたくださった親鸞聖人の恩徳に報謝し、すべての人々が阿弥陀仏の大悲に遇うことを願って報恩講を修することが表白されます。

表白に続いて、親鸞聖人の遺徳を三つ挙げて讃嘆する文が拝読されます。

第一の「真宗興行の徳」とは、親鸞聖人が浄土真宗をお開きになり、広められたという徳です。覚如上人は、親鸞聖人のご生涯のご苦勞を記し、いま、私たちがお念仏の教えに出遇うことができたのは、このご苦勞を通して真宗の教えが開かれたためであり、遺弟の方々

の念仏の力によつて盛んになったためであると讃嘆されています。そして念仏することによつてこのご恩に報いましょうと勧めています。

第二の「本願相応の徳」とは、親鸞聖人が本願念仏の教えを説かれ、仏のお心に相応されたという徳です。覚如上人は、念仏をする人は多いけれども、念仏して救われる道を身をもつて説き、導いてくださった方こそ親鸞聖人であると讃嘆されています。そして、覚如上人は、このような仏のお心になつたご教化がなかつたならば、どうして私たちが大いなる利益をいただくことができるだろうかご恩を深くいただかれ、念仏することによつてこのご恩に報いましょうと勧めています。

第三の「滅後利益の徳」とは、親鸞聖人が亡くなられた後も、教えにふれ、帰依する者が多いという徳です。覚如上人は、親鸞聖人が亡くなられても、教えを聞いた多くの方々各所で人々に勧め、親鸞聖人が生きておられたとき以上に教えが広まっていると讃嘆されています。そして親鸞聖人は、いつでもどこでも人々を導き救うという阿弥陀如来の仏事を担い、私たちを導いてくださっていると讃嘆され、念仏することによつてこのご恩に報いましょうと勧めています。

報恩講私記(式文)

先総礼 次三礼 次如来唄 次表白

敬いて大恩教主釈迦如来、極楽能化弥陀善逝、

稱讚浄土三部妙典、八万十二頭密聖教、観音・

勢至・九品聖衆、念仏伝来の諸大師等、総じては

仏眼所照微塵刹土の現不現前一切の三宝に白し

て言さく、弟子四禅の線の端に、適、南浮人身の

針を買き、曠海の浪の上に、希に、西土仏教の查

に遇えり。ここに祖師聖人の化導によりて、法蔵

因位の本誓を聴く、歡喜胸に満ち渴仰肝に銘ず。

しかればすなわち、報しても報ずべきは大悲の仏

恩、謝しても謝すべきは師長の遺徳なり。かるが

ゆえに、観音大士の頂上には本師弥陀を案じ、大

聖慈尊の宝冠には釈迦の舍利を戴きたまふ。縦い、

万劫を経とも、一端をも報じ直し、しかじ、名願

を念じて彼の本懐に順ぜんには。今、三つの徳を

揚げて、将に、四輩を勧めんとおもう。

一つには真宗興行の徳を讃げ、二つには本願相応

の徳を嘆じ、三つには滅後利益の徳を述す。伏して乞う、三宝、哀愍納うしたまえ。

第一に真宗興行の徳を讃ずというは、俗姓は後長

岡の丞相内齋公の末孫、前皇太后宮大進有範の

息男なり。幼稚の古、壮年の昔、耶嬢の家を出で

て台嶺の窓に入りたまひしよりこのかた、慈鎮和

尚をもつて師範と為て、頭密両宗の教法を習学す。

蘿洞の霞の中には三諦一諦の妙理を窺い、草庵の月

の前には瑜伽瑜祇の観念を凝らす。鎮に、明師に

逢うて大小の奥蔵を伝え、広く諸宗を試みて甚深

の義理を究む。しかれども、色塵声塵、猿猴の情、

なお忙わしく、愛論見論、痴膠の憶い、いよいよ

堅し。断惑証理、愚鈍の身成じ難く、速成覚位、

未代の機單び直し。よりにて、出離を仏陀に誂え、

知識を神道に祈る。しかるあいだ、宿因多幸にして、

本朝念仏の元祖黒谷聖人に謁し奉りて、出離の要

道を問答す。授くるに浄土の二宗をもつてし、示す

に念仏の一行をもつてす。自爾このかた、聖道難行の門を闊きて浄土易行の道に帰し、忽ちに、自力の心を改めて、偏に、他力の願に乗ず。自行化他、道練の遺誡を守り、専修専念、善導の古風に任す。見聞の道俗随喜を致し、遠近の縑素、皆発心す。ここに、祖師、西土の教文を弘めんが為に、遙かに東関の斗敷を跋てたまう。暫く常州筑波山の北の辺に逗留し、貴賤上下に対して末世相應の要法を示す。初めに、疑謗を成す輩、瓦礫荆棘の如くなりしかども、遂に改悔せしむるの族、稻麻竹藁に同じ。皆邪見を翻して、悉く正信を受け、共に偏執を止めて還りて弟子と為る。おおよそ、訓えを受くる徒衆、当国に余り、縁を結ぶ親疎諸邦に満てり。謗法闡提の輩なりといえども、彼の教化を聞く者、覺悟花鮮やかに、愚痴放逸の類なりといえども、其の諷諫を得る者、惑障雲霽る。喩えば木石の縁を待ちて火を生じ、瓦礫の釧を磨りて珠を為すがごとし。甚深の行願不可思議なる者か。方に今、念仏修行の要義、区なりといえども、他力真宗の興行はすなわち、今師の知識より起り、

導大師の曰わく、「今時の有縁あい勧めて、誓いて浄土に生ぜしむるは、すなわち是、諸仏本願の意に称うなり」(定善義)と。また曰わく、「大悲伝普化真成報仏恩」(往生礼讚)と。しかれば、祖師聖人、金剛の信心を發起して自身の生因を定得し、本願の名号を流行して衆機の往益を助成す。豈、本願相應の徳にあらずや、寧ろ仏恩報尽の勤にあらずや。また恒に門徒に語りて曰わく、「信謗、共に因と為りて、同じく往生浄土の縁を成ず」と。誠なるかな、斯の言、疑う者も必ず信を執り、謗する者も遂に情を翻えす。実に是仏意相應の化導、そもそも、また勝利广大の知識なり。悪時悪世界の今、常没常流転の族、もし聖人の勸化を受けたてまつらずは、争か無上の大利を悟らん。既に一声称念の利剣を揮いて、忽ちに無明果業の苦因を截り、悉く三仏菩提の願船に乗じて、將に涅槃常楽の彼岸に到りなんとす。弥陀難思の本誓、釈迦慇懃の附属、仰がずんば有るべからず。諸仏誠実の証明、祖師矜哀の引入、憑まずんば有るべからず。これに因りて各本願を

専修正行の繁昌はまた、遺弟の念力より成ず。流を酌んで本源を尋ぬるに、偏に是祖師の徳なり、須らく仏号を称して師恩を報ずべし。頌に曰わく、
「若非釈迦勸念仏 弥陀浄土何由見
心念香花遍供養 長時長劫報慈恩」(般舟讚)

念仏

「何期今日至宝国 実足娑婆本師力
若非本師知識勸 弥陀浄土云何入」(般舟讚)
南無帰命頂礼尊重讚嘆祖師聖靈

第二に本願相應の徳を嘆ずというは、念仏修行の人、之多しといえども、専修専念の輩、甚だ稀なり。あるいは自性唯心に沈みて、徒に浄土の眞証を貶しめ、あるいは定散の自心に迷いて、宛も金剛の眞信に闡し。しかるに、祖師聖人、至心信樂已を忘れて、速やかに無行不成の願海に帰し、憶念称名、精有りて、鎮々に不断無辺の光益に関する。身にその証理を彰し、人、彼の奇特を看るこゝと勝計すべからず。しかのみならず、来問の貴賤に對して専ら他力易往の要路を示し、面調の道俗を誘えて偏に善悪凡夫の生因を明かす。所以に善

持ち、名号を唱えて、いよいよ二尊の悲懐に協い、
仏恩を戴き、師徳を荷いて、特に一心の懇念を呈
わすべし。頌に曰わく、

「世尊説法時將了 慇懃附屬弥陀名
五濁増時多疑謗 道俗相嫌不用聞」(法事讚)

念仏

「万行之中為急要 迅速無過浄土門
不但本師金口説 十方諸仏共伝証」(五会法事讚)
南無帰命頂礼尊重讚嘆祖師聖靈

第三に、滅後利益の徳を述すというは、積尊の教網を三界に覆う。猶、末世苦海の群類を済い、今師の法雨を四輩に灑ぐ、遠く常没濁乱の遺弟を湿おす。彼の在世を謂えばすなわち九十歳、顕宗・密教、鑽仰せずということなし。其の行化を訪えばまた六十年、自利利他満足せずということなし。在家出家の四部、群集すること、盛なる市に異ならず。大乘・小乗の三輩、帰伏すること、風に靡く草のごとし。終に則ち花洛に還りて草庵を占めたまう。しかるあいだ、去んじ弘長第二壬戌黄鐘二十八日、前念命終の業成

を彰して、後念即生の素懐を遂げたまいき。ああ、禪容隠れて、何にか在す、給仕を数十箇回の月に隔つ。遺訓絶えて幾の程ぞ、旧跡を一百余年の霜に慕う。彼の遺恩を重くする門葉、其の身命を軽くする後昆、毎年を論ぜず、遠絶を遠しとせず、境関千里の雲を凌ぎて、奥州より歩みを運び、隴道万程の日を送りて諸国より群詣す。廟堂に跪ずきて涙を拭い、遺骨を拝して腸を断つ。入滅、年遙かなりといえども、往詣挙りて未だ絶えず。哀なるかな、恩顔は寂滅の煙に化したまうといえども、真影を眼前に留めたまう。悲しきかなや、德音は無常の風に隔るといえども、実語を耳底に貽す。選び置きたまう所の書籍、万人之を披きて多く西方の真門に入り、弘通したまう所の教行、遺弟之を勧めて広く片域の群萌を利す。おおよそその一流の繁昌は、殆在世に超過せり。情、平生の化導を案じ、閑に当時の得益を憶うに、祖師聖人は直也人に匪、すなわち是権化の再誕なり。已に弥陀如来の応現と称し、また曇鸞和尚の後身とも号す。皆是夢中に告を得、幻の前

に瑞を視し故なり。況や自ら名のりて親鸞と曰う、測り知りぬ、曇鸞の化現なりということ。しかばすなわち聖人、修習念仏の故に、往生極樂の故に、宿命通をもちて知恩報徳の志を鑑み、方便力をもち有縁無縁の機を導きたまわん。願わくは師弟芳契の宿因によりて、必ず最初引接の利益を垂れたまえ。よりて各他力に帰して仏号を唱えよ。頌に曰わく、

念仏
「身心毛孔皆得悟 菩薩聖衆皆充滿
自化神通入彼會 憶本娑婆知識恩」(般舟讚)

「直入弥陀大会中 見仏莊嚴無數億
三明六通皆具足 憶我閻浮同行人」(法事讚)

南無歸命頂禮尊重讚嘆祖師聖靈
南無歸命頂禮大慈大悲釈迦善逝
南無歸命頂禮極樂化主弥陀如来
南無歸命頂禮六方証誠恒沙世尊
南無歸命頂禮三國伝燈諸大師等
南無自他法界平等利益

『真宗聖典』(東本願寺出版発行)より

『歎徳文』について

『歎徳文』は、題名のとおり親鸞聖人の徳をよるこび讚め嘆える文で、『報恩講私記』と共に報恩講で拝読されます。一三五九(延文四)年、第三代覚如上人の子・存覚上人が、第四代善如上人に請われて作られました。

『歎徳文』では、幼少の頃の学業から入滅まで、親鸞聖人のご生涯を通して浄土真宗の教えが明らかにされつつ、その遺徳が讃嘆されています。存覚上人は、まず親鸞聖人が聖道の教えをすてて本願念仏に帰されたことを確かめておられます。

定水を凝らすと雖も識浪頻りに動き、心月を観ずと雖も妄雲猶覆う(心をしずめようとしても意識は浪のように動き、法を観ようとしても迷いの雲が覆ってしまふ)。存覚上人は、親鸞聖人が聖道の修行を通して煩惱具足の身を見つめられたことを記し、親鸞聖人こそわれわれ凡夫が歩むことのできる真実の仏道を明らかにしてくださった方であると、そのご恩を讃嘆されています。

次に存覚上人は、親鸞聖人がどのように私たちを教え導いてくださったかを確認しておられます。まず『教行信証』「親鸞聖人の主著『顕浄土真実教行証文類』」をお書きくださったことが挙げられ、多くの經典や論書などから大切なことをまとめ、真実の教えを明らかにしてくだ

さつたと讃嘆されています。存覚上人はこの『教行信証』を深く学ばれ、『六要鈔』という註釈の書をお書きになっています。

続いて存覚上人は、親鸞聖人が「愚禿鈔」という書物をお書きくださったことを挙げています。「愚禿」とは、破戒僧(戒を破った僧)を意味する「禿」に、さらに「愚」の字を加えたもので、流罪以後、親鸞聖人はご自身の姓とし、「愚禿親鸞」と名がられました。その「愚禿」の名を冠したこの書で、特に凡夫の往生を明らかにしてくださつたと親鸞聖人の教えの肝要を確かめ、讃嘆しています。この二書の讃嘆に続いて、存覚上人は、流罪から関東でのご教化、京都に戻られて亡くなるまでのご教化を讃嘆すると共に、亡くなった後も多くの方々の参詣が盛んであることを讃嘆しています。

最後に存覚上人は、父・覚如上人が作られた『報恩講私記』にふれ、そこに十分親鸞聖人の遺徳が讃えられているけれども、さらに重ねてご恩に報いる心を表し、報恩講をお勤めしたいと自らのお心を表白されています。そして、「弥勒菩薩が成仏される、はるか五十六億七千万年の後まで、教えが流れ、人々を潤すことを乞うてやみません」と、その願いを記しています。

歎徳文

それ、親鸞聖人は、浄教西方の先達、真宗末代の明師なり。博覧内外に渉り、修練頭密を兼ね。初めには俗典を習いて切磋す。此は是、伯父業吏部の学窓に在りて、聚螢映雪の苦節を抽ずる所なり。後には円宗に携りて研精す。此は是、貫首鎮和尚の禅房に陪りて、大才諸徳の講敷を聞く所なり。之によりて、十乘三諦の月、観念の秋を送り、百界千如の花、薰修歳を累ぬ。ここに情出要を窺いて、是の思惟を作さく、「定水を凝らすと雖も識浪頻りに動き、心月を観ずると雖も妄雲猶覆う。しかるに息追がざれば千載に長く往く、何ぞ浮生の交衆を貪りて、徒に仮名の修学に疲れん。須らく勢利を抛てて直ちに出家を恠うべし」と。しかれども機教相応凡慮明らめ難く、すなわち近くは根本中堂の本尊に対し、遠くは枝末諸方の靈輻に詣でて、解脱の径路を祈り、真実の知識を求む。特に歩を六角の精舎に運びて、百日の懇念を底すの処に、親子

告げを五更の孤枕に得て、数行の感涙に咽ぶ間、幸いに黒谷聖人吉水の禅室に臻りて、始めて弥陀覚王浄土の秘扃に入りたまひしよりこのかた、三経の冲微、五祖の奥蹟、一流の宗旨相伝誤つことなく、二門の教相禀承、由有り。是をもちて仰ぐ所は「即得往生住不退転」の誠説、宛も平生業成の安心に住し、憑む所は「歡喜踊躍乃至一念」の流通、此すなわち無上大利の勝徳なり。よつて自修の去行をもつて、兼て化他の要術と為す時に尊卑多く礼敬の頭を傾け、緇素挙りて崇重の志を斉くす。就中に一代蔵を披きて経・律・論・積の簡要を擢でて、六巻の鈔を記して『教行信証之文類』と号す。彼の書に據ぶる所義理甚深なり。所謂、凡夫有漏の諸善、願力成就の報土に入らざることを決し、如来利他の真心、安養勝妙の楽邦に生ぜしむることを呈し、殊に仏智信疑の得失を明かし、浄土報法の往生を感ずることを判ず。兼てはまた択瑛法師の釈義に就いて、横豎二出の名を摸すといえども、宗家大師の祖意を探りて、巧みに横豎二超の差を立つ。

彼此助成して権実の教旨を標し、漸頓分別して長短の修行を弁ず。他人の未だ之を談ぜず、我が師ひとり之を存す。また『愚禿鈔』と題する選有り、同じく自解の義を述ぶる記たり。彼の文に云わく、「賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す。賢者の信は、内は賢にして外は愚なり。愚禿が信は、内は愚にして外は賢なり」と云々。此の釈、卑謙の言辞を仮りて、其の理翻対の意趣を存す。内に宏智の徳を備うといえども、名を碩才道人の聞きに銜わんことを痛み、外に只至愚の相を現じて、身を田父野叟の類に俾しとせんと欲す。是すなわち竊かに末世凡夫の行状を示し、専ら下根往生の実機を表する者をや。加之、あるいは二機比較して、一十八対の別を顕す。大底、両典の巨細具に述べべからず。そもそも空聖人当教中興の篇によりて事に坐せし刻み、鸞聖人法匠上足の内として、同科の故に、忽ち上都の幽棲を出でて遙かに北陸の遠境に配す。しかるあいだ居諸頻に転じ、涼燠屢倏まる。そのとき檐懽貢高の儔ら、邪見を翻してもちて正見に赴

き、儻弱下劣の彙、怯退を悔いてもつて弘誓に託す。貴賤の帰投遐邇合掌、都鄙の化導首尾満足す。遂にすなわち蓬闕勅免の恩新に加わりし時、華洛帰歟の運再び開けし後、九十有回生涯の終わりを迎えて、十萬億西涅槃の果を証したまひしよりこのかた、星霜積もりて幾許の歳ぞ。年忌月忌本所報恩の勤め解ることなく、山川隔たりて數百里、遠国近国後弟参詣の儀猶煽んなり。是しかしながら聖人の弘通、冥意に叶うが致す所なり。寧ろ衆生の開悟、根熟の然らしむるによるにあらざるや。おおよそ三段の『式文』称揚たりぬといえども、二世の益物讚嘆未だ倦まず。是の故に一千言の褒誉を加えて、重ねて百万端の報謝に擬す。しかればすなわち蓮華蔵界の中にして、今の講肆を照見し、檀林宝座の上より斯の梵筵に影向したまうらん。内証外用定めて果地の莊嚴を添え、上求下化宜しく菩提の智断を究めたまうべし。重ねて乞う、仏閣基固くして遙かに梅但利耶の三会に及び、法水流れ遠くして普く六趣四生の群萌を潤さん。敬いて白す。

『真宗聖典』（東本願寺出版発行）より

報恩講の「お齋」は、報恩講が始まった当初から、全国各地の「講」や御同行によって持ち寄られた、蓮根・椎茸・大根、ごぼうなどの食材で食事を作り、宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲びながらいたただいたこと由来しています。現在もその伝統を受け継ぎ、各地の講から持ち寄られた食材によって調理されています。ぜひご賞味ください。



2019年の様子。本年は椅子席となります。

報恩講 お齋

日時 11月22日(水)～28日(火)

1回目(80席) 11時40分～

2回目(80席) 12時40分～

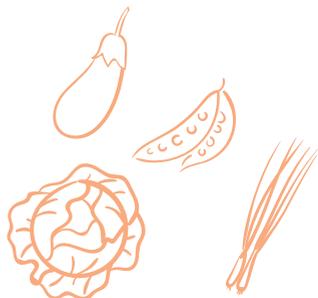
※25・28日は2回目(80席)のみ

25日は12時10分、28日は12時40分

場所 大寝殿

冥加金 お一人 4,000円(当日券は5,000円)

※当日券をご希望の方は、境内白洲の受付テントに
お問い合わせください。



「お齋」の献立は一汁三菜が基本となっており、汁はけんちん汁、三菜は焚物、合物、風呂吹き大根で、ご飯と香物がつきます。また、かつて「お齋」は、全国から参拝されたご門徒の方々が各地へ持ち帰り、上山できなかったご門徒と報恩講に出遇えた喜びを分かち合い、食したと伝えられています。現在はその名残りとして、饅頭・お酒(五環正宗)・みかんをお持ち帰りいただいています。

【お齋に関するお問い合わせ】本廟部(参拝接待所)TEL:075-371-9210
※予約の前日以降のキャンセル・人数変更ができませんのでご了承ください。

帰敬式

帰敬式は「おかみそり」ともいわれ、仏弟子となる大切な儀式です。

この帰敬式では、剃刀の儀を受け、仏・法・僧の三宝に帰依することを誓い、法名をいただきます。

仏・法・僧の三宝ですが、「仏」はお釈迦さまをはじめとする真理に目覚めた人をいい、「法」はその真理である阿彌陀如来の教えを表します。そして「僧」は僧伽ともいい、その法に依って生きる人々をいいます。その仏・法・僧は宝で

ある、と表現しています。

また法名ですが、お釈迦さまの「釈」をいただきます。法名は、亡くなった後の名前と思われがちですが、お釈迦さまの弟子としての名告りであるため、生前にいただくのが本来のあり方です。

親鸞聖人は、念仏を称える生活の中で、阿彌陀如来の本願を依り処とされました。帰敬式は、その本願を依り処とする真宗門徒としての出発式です。



2017年
札幌別院報恩講

21日は讃仰法要(音楽法要)後、22日～27日は日中法要後に帰敬式を執り行います。受式を希望される方は、当日9時から9時30分までに、境内の参拝接待所にてお申し込みください。

礼金 **お一人1万円**
(20歳以下 お一人5千円)

【報恩講期間中の受式に関するお問い合わせ】本廟部(参拝接待所)TEL:075-371-9210
【その他、帰敬式全般に関するお問い合わせ】
研修部(帰敬式実践運動推進事務室)TEL:075-371-9185

※11月20日及び28日は帰敬式は執行されません。

子ども参拝案内所

11月23日(木・祝)・25日(土)・
26日(日)・28日(火)

場所 境内白洲テント

時間 9時～16時(28日は12時まで)

子どもたちに向けた両堂の参拝案内を実施。
参拝記念品の配布、工作やぬり絵、紙芝居の
上演、絵本の読み聞かせ等を行います!



おてらおやつクラブin東本願寺

お寺にお供えされるさまざまな「おそなえ」を、子ども参拝案内所へお持ちください。お預かりした「おそなえ」は、特定非営利活動法人おてらおやつクラブ事務局を通して、子どもやひとり親家庭などを支援する各地域の団体等にお送りします。



おてら
おやつ
クラブ

受付場所:子ども参拝案内所
受付しているもの:
賞味期限が2024年1月5日以降のお菓子・
食品もしくは日用品など

報恩講人權パネル展 解放運動推進本部

11月21日(火)～28日(火)

場所 境内白洲テント

時間 9時～16時(28日は12時まで)

解放運動推進本部と女性室で取り組んでいる課題から、約40点のパネルと映像を展示します。
また関連資料を配布します。



報恩講園児絵画展

11月15日(水)～11月28日(火)

場所 ・しんらん交流館／御影堂北側高廊下
・京都駅前公益地下ストリートギャラリー

時間 各施設の開所時間に準ずる
(28日は12時まで)

(公社)大谷保育協会加盟園と京都市内の各園から募集した園児の絵画約300点を展示します。



東本願寺お買い物広場

11月21日(火)～28日(火)

時間 9時～16時 ※25日は18時30分まで
※28日は7時～16時まで

東本願寺出版発行の書籍やCDのほか、オリジナル記念品などを取り揃えて、皆さまのお越しをお待ちしております。



書籍、仏事関係記念品、
オリジナルグッズ、お菓子類など、
さまざまな記念品やお土産を
ご用意しています。

復興支援 東日本大震災で被災された多くの方々の経済復興を願って、手芸品などの支援グッズも販売されています。
グッズ販売 出品:「おばあちゃん手芸部願いのハーモニー」(大船渡市)

※「東本願寺お買い物広場」は、大谷派保信会加盟業者有志で構成される「株式会社 願生舎」が主体となって販売を行っています。

東本願寺キャラクター大型バルーン

場所 子どものひろば(境内南側)

11月22日(水)・23日(木・祝)・25日(土)・26日(日)

今春の慶讃法要で好評だった東本願寺キャラクター(鸞恩くん・あかほんくん・蓮ちゃん)をモチーフにした大型バルーンを再び設置します。



しんらん交流館で開催される行事

報恩講期間中、しんらん交流館では、講演会をはじめ、さまざまな行事を行っています。ぜひ、日程にあわせてお越しください。



開館時間 9時～18時(24日、26～28日は21時まで)

報恩講期間中の行事

ギャラリー(1階)

- 10月4日(水)～12月18日(月) 「梅林秀行さんと歩く 東本願寺 水と緑の散歩道」展 **<観覧無料>**
- 11月15日(水)～11月28日(火) 報恩講園児絵画展 ※詳細は59頁をご覧ください

大谷ホール(2階)

- 11月24日(金) 真宗教学学会講演会 18時～20時20分(開場17時)
- 11月26日(日)～28日(火) 親鸞聖人讃仰講演会 各日18時～20時30分(開場17時)

『親鸞万華鏡』発刊記念
トークセッション

いま、親鸞を語る

東本願寺の月刊誌『同朋』に2017年7月号から2023年6月号まで連載のインタビュー企画「親鸞万華鏡」のうち、30篇をまとめた単行本『親鸞万華鏡』を12月1日に発売します。これを記念して、ご登場いただいた3名の方に、改めてそれぞれの親鸞観を語っていただくとともに、人々が格差や孤立に苦しむアフターコロナの現在において“親鸞を語る”ことの意味を共に考えます。

日 時 11月30日(木) 18時～19時30分(17時開場)

会 場 しんらん交流館2階・大谷ホール

スピーカー 伊藤比呂美氏(詩人)

高橋源一郎氏(作家)

中島岳志氏(東京工業大学教授)

司 会 花園一実氏(真宗大谷派東京教区圓照寺住職)

定 員 300人

参加費 1,000円

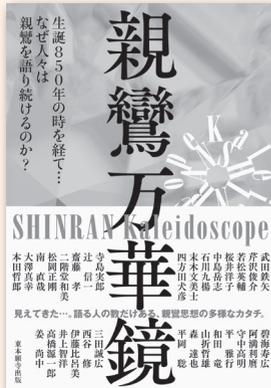
お問い合わせ 東本願寺出版

TEL:075-371-9189

MAIL: shuppan@higashihonganji.or.jp



報恩講期間中
お買い物広場にて先行発売!



四六判・376頁・3,300円(税込)

重要文化財 「鐘楼」修理現場公開

見学日時 11月21日(火)～27日(月) 11:30～13:00 / 15:00～16:30

受付場所 鐘楼素屋根北側



本年7月から行われている鐘楼修理工事の現場を一般公開します。修理工事用の素屋根に上って、現場の様子を間近で見ることができるとない機会です。ぜひお越しください。

※日程の都合により時間の変更となる場合があります。

※鐘楼素屋根は修理工事用の足場となりますので、動きやすい服装と歩きやすい靴でお越しください。

ご懇志のお願い

私どもの宗門は、全国のご寺院とそこに集うご門徒のお運びいただいたご懇念により、宗祖親鸞聖人が顕かにされた本願念仏の教えに生きる「人の誕生」とその教えを相続していく「場の創造」を期し、報恩講をはじめとするさまざまな法要や行事を執り行っております。

今後の宗門のさらなる興隆を念じ、お一人でも多くの方にご懇志をご進納いただきたく、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

報恩講期間中、御影堂前の総合受付テントにてご懇志をお受付しております。

◆真宗大谷派災害救援金のお願い

災害における被災者の一日も早い復興・復旧に資するため、境内各所に救援金箱を設置しています。被災地の復興支援にご協力をお願いいたします。

スタンプラリー

真宗教団連合主催 真宗10派本山報恩講法要巡り

真宗教団連合主催で、宗派を超えた「真宗10派本山報恩講法要巡り(スタンプラリー)」を開催しています。東本願寺(真宗大谷派)では、11月21日～28日の報恩講期間中、境内白洲総合案内テントにスタンプを設置し、台紙を配布しています。

※法要巡りの詳細、各派の報恩講法要日程は「真宗教団連合ホームページ」をご覧ください。

10派全法要
参拝の方には
記念品を贈呈。
ぜひご参加
ください。



しんらん交流館では、一年を通じて定例法話や日曜講演などの法座を開いています。詳しくはしんらん交流館ホームページ等でご確認ください。

おお たに そ びょう

大谷祖廟(東大谷)

大谷祖廟は宗祖親鸞聖人の御廟所(墓所)です。真宗本廟(東本願寺)の飛地境内地である大谷祖廟には、親鸞聖人をはじめ、本願寺の歴代やご門徒の方々のご遺骨が納められており、日々多くの参拝者が訪れます。真宗本廟と共に、親鸞聖人のみ教えを聞き、真宗門徒一人ひとりが自らをたずねていく聞法道場として開かれています。報恩講の折、親鸞聖人のお墓参りも兼ね、大谷祖廟へご参拝ください。

- 開門 5時 ■閉門 17時
- 納骨・永代経・読経受付時間
- 8時45分～11時30分
- 12時45分～15時30分
- ※11時30分～12時45分までは受付を休止しています

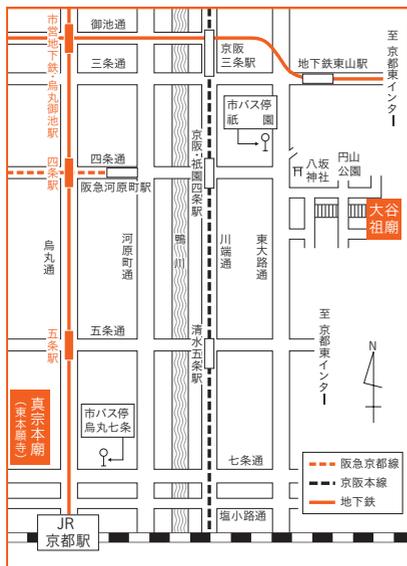


大谷祖廟「納骨・永代経」・「別座申経」の事前予約について

ご予約は宗派公式ホームページから承ります。

詳細、ご予約はこちらから

※当日の申し込み・受付も行っております。



<アクセス>

<京都駅から>

▶市バス乗り場から206系統(約20分)→「祇園」下車 ※「祇園」バス停からは徒歩約10分です。

<地下鉄「四条」駅・阪急「烏丸」駅から>

▶市バス201・203・207系統(約15分)→「祇園」下車

<その他>

▶京阪「祇園四条」駅・阪急「河原町」駅→徒歩約20分

▶タクシー「丸山公園南の大谷祖廟」とお伝えください。

※団体参拝バス(マイクロバス含む)でのご参拝は、大谷祖廟事務所にお問い合わせください。

●お問い合わせ

真宗大谷派(東本願寺) 大谷祖廟事務所
〒605-0071 京都市東山区丸山町477
TEL:075-561-0777 FAX:075-533-0780

しょう せい えん き こく てい

涉成園(枳殻邸)

真宗本廟(東本願寺)の飛地境内地である涉成園は、江戸時代初期に造営された池泉回遊式の庭園で、かつては周囲に枳殻の木が植えてあったことから、枳殻邸の名でも親しまれています。江戸時代の文人・頼山陽が「涉成園十三景」として讃えた庭園の景観は、今も造営当初の趣を残し、1936(昭和11)年12月には、国の名勝に指定されています。



紅葉の様子

四季折々に美しさを見せる涉成園ですが、特に報恩講の季節には楓、銀杏などが色づき、より一層その趣を高めています。

涉成園 秋のライトアップ

10月28日(土)～12月2日(土) 17時～22時(最終受付21時30分)

涉成園のライトアップでは、茶室などの名建築をはじめ、園の中心にある印月池といった自然風景が美しく彩られます。報恩講にお参りの際には、あわせて夜の涉成園もお楽しみください。

涉成園

開園時間

〈昼間〉9時～16時(最終受付15時30分)

〈夜間〉17時～22時(最終受付21時30分)

※〈夜間〉は10月28日～12月2日のみ

※16時～17時までは一度閉門いたします

(入れ替え制)

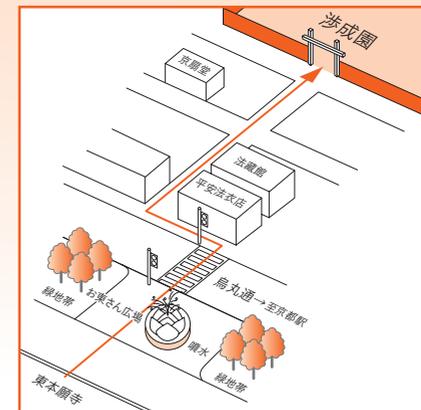
庭園維持寄付金

〈昼間〉500円以上 〈夜間〉800円以上

アクセス

京都駅より徒歩10分

市営地下鉄烏丸線・五条駅より7分



【お問い合わせ】本廟部・参拝接待所 TEL:075-371-9210

けん もん きょう ぎょう しん しょう ほん どう ほん
見聞『教行信証』坂東本
親鸞聖人から私たちへのメッセージ



期間 11月21日(火)～28日(火)
時間 ①11時40分～②12時40分～
(1回15分程度を予定)

※22日・23日・25日・28日は②のみ
※『教行信証』坂東本(影印本)の展示は解説時のみに限ります
※各回開催予定時刻に阿弥陀堂の堂内にお集まりください

会場 阿弥陀堂

教学研究所
職員が解説!

時を超えて伝えられてきた親鸞聖人の肉筆にふれることで、聖人の息づかいを感じ、その願いを聞き取ることができるのではないのでしょうか。

御正忌報恩講期間中、『教行信証』坂東本(影印本)を展示し、親鸞聖人の思索を真宗大谷派(東本願寺)教学研究所の研究職員が阿弥陀堂にて解説いたします。

※坂東本は、現存する唯一の親鸞聖人直筆の『教行信証』です。
展示は、坂東本を忠実に再現した影印本になります。

申込不要・参加無料

【お問い合わせ】真宗大谷派(東本願寺)教学研究所 TEL 075-371-8750

大谷大学博物館20周年記念
宗祖親鸞聖人誕生850年・「古典籍の魅力2023」
立教開宗800年記念



大谷大学博物館(京都市北区)において、『教行信証』坂東本を展示いたします。法要にご参拝の際はぜひ足をお運びください。

開催期間 10月10日(火)～11月28日(火)
※休館日:日・月曜
(ただし、10月23日(月)、11月26日(日)、27日(月)は開館)
開館時間 10時～17時(入館は16時30分まで)
会場 大谷大学博物館(京都市北区小山上総町)
観覧料 一般・大学生500円

【お問い合わせ】大谷大学博物館 TEL 075-411-8483

『教行信証』
坂東本を展示!

真宗大谷派公式X(twitter)、Facebook、YouTube



真宗本廟奉仕

真宗本廟には、全国から集う皆さんが寝食を共にし、親鸞聖人の教えを聞き、真宗門徒の生活を習う聞法奉仕の施設があります。

「同朋会館」に宿泊し、聞法をとおして、かけがえない“私”をたずねてみませんか。どなたでも参加できます。

お申し込み

【団体】1団体5名以上で受付します。
【個人】4名以下は個人枠で受付します
(最少実施人数5名)。

40日前までに、同朋会館研修部へお電話でお申し込みの上、申込書を提出ください。

冥加金

期間	大人 (15歳以上) ※学生以外	学生・高校生	小中学生	団体園児
2泊3日	18,000円	13,500円	9,000円	5,000円
1泊2日	13,000円	9,500円	6,500円	3,500円

※未就学児は無料です。上記の他に、2泊3日の場合は米2kg(又は米代金1,300円)、1泊2日の場合は、米1.2kg(又は米代金800円)が必要です。
※人数に応じて「団体補助」、距離に応じて「旅費補助」があります。
※「障害者手帳」及び「生活保護受給者証」をお持ちの方に対する冥加金の減額や身体的介助が必要な方の介助者冥加金免除がありますので、お問い合わせください。

お気軽にお電話ください!

お問い合わせ・お申し込み

研修部 TEL:075-371-9185
同朋会館ホームページ <http://dobokaikan.jp>
(真宗本廟奉仕のご案内、同朋会館受入状況を定期的に更新しています)

同朋会館フェイスブック <http://www.facebook.com/higashihonganji.dobokaikan/>

〈日程例〉

	1日目	2日目	3日目
6:00		起床・洗面	館内清掃
7:00	※11時までに和歌堂へお入りください。	晨朝参拝(帰敬式) 朝食	晨朝参拝 朝食
9:30		(法名伝達式)	講義
10:30		お内仏のお給仕 ～御本尊を中心に～	座談 (協議会)
11:00	入館	座談	解散式
11:20	結成式		
12:00	昼食		
13:00	日程打合せ 両堂参拝	(記念写真撮影)	退館 ※日程内容のご要望により、調整・変更できます。 ※1泊2日の日程もあります。
14:00	オリエンテーション	清掃奉仕 諸殿拝観	
15:30	講義	講義	
16:00			
17:00	夕事勤行 感話 夕食		
17:30	座談		
19:00	入浴 就寝		
20:30			
22:00			

東本願寺仏事サポートセンター(東京・福岡)のご案内

東本願寺仏事サポートセンターとは、東本願寺真宗会館(東京都練馬区)及び九州教務所福岡教務支所(福岡県福岡市)に開設された仏事相談窓口の呼称です。

仏事相談から法務の執行までサポートする総合窓口として、両地域に住むご門徒や一般市民と真宗のみ教えとのご縁をつなぐ役割を担っています。

・東本願寺仏事サポートセンター東京(担当:首都圏教化推進本部)
専用ダイヤル(9:00～17:00) 03-6913-2273

・東本願寺仏事サポートセンター福岡(担当:九州教務所福岡教務支所)
専用ダイヤル(10:00～17:30) 092-734-0208

